

別紙

意見の概要、釜石市教育委員会の考え方

ページ	意見の概要	釜石市教育委員会の考え方
P3-6 学校規模の 適正化・適 正配置の方 向性	甲子中はR20でも1クラス20人は在籍となる。統合すると、通学時間も長くなり、生徒の負担となる。まだ、統合は早いのではないか？	中学校において9学級に満たない場合、専門教科の免許を持つ教師が配置されない場合があります。また、甲子中学校はR16年度以降各学年1クラス、全3学級となることから、全ての学年でクラス替えができなくなり、人間関係が固定化するなどの課題が生じることが考えられます。教育委員会では、できる限り望ましい教育環境を整備するため、統合により一定の規模を確保しようと考えております。通学につきましては、通学距離、時間は現在より長くなりますが、基本方針の基準内で収まると考えております。
	地域説明会を実施していただいているが、学校統合にむけて、どういった方法を用いて、どういう状況になったならば合意を得たと判断するのか？	地域説明会及びパブリックコメントにおいて、推進計画案を見直す必要が生じるような重要な懸念事項が生じたり、反対意見が大多数を占めるといった状況でなければ、本推進計画（案）については、合意を得られたものと判断いたします。 また、今後、設置する学校統合準備委員会で、様々な事項を検討する必要があり、その中で、合意形成を図ってまいります。
	保護者や子どもの意見を大切に、推進計画のスケジュールありきではなく、合意形成を確実にしていただきたい。	今後、学校、地域、保護者の皆様等で組織する学校統合準備委員会を立ち上げ、統合に向けた準備を進めることとなりますが、スケジュールありきではなく、学校の実情や課題を確認し、解決しながら進めたいと考えています。また、その当事者となる子どもたちの意見も聞き、児童生徒の目線を大事にしながら、共に進めていきたいと考えております。

ページ	意見の概要	釜石市教育委員会の考え方
P7-8 小中一貫教育の導入の方向性	小中一貫校の良さのひとつとして、小中それぞれの教員が、乗り入れができると示しているが、今の教職員定数では、負担でしかない。現実的に無理があることが多い。この形態を取る前に、しっかりと現場で話し合う時間が取れるようにさまざまな外部からの要請に対応しなくてもよいようにしていただきたい。	小中一貫校を開始するまで、3年間の準備期間を設けることとしております。その中で、他校の事例等を参考にしながら、子どもたち、教職員の両方にとってもより良い学校となるよう、どのような学校、教育を目指すのか等、教育委員会、教職員等で十分に協議を重ねてまいります。
P9 学校統合を進める上で配慮する事項	通学費用の負担軽減のため、確実にスクールバスをお願いしたい。	通学距離が基本方針で示す基準を超える場合、家庭の費用負担が発生しないよう、スクールバスによる送迎や公共交通機関を利用した場合の通学費の補助など通学手段の確保に努めます。新たにスクールバスの運行経路が設定される場合は、運行時刻や乗降場所については、保護者の皆様とも協議を重ね、決定していきます。
	統合した年だけ加配をつけるのではなく、数年付けることで、子どもと教職員が安心して学校生活を送れるようにしていただきたい。	児童生徒と教職員が安心して学校生活を送れるようにすることは非常に重要と捉えており、岩手県教育委員会と協議し、加配教員を要請してまいります。また、統合前から子どもたちの事前交流等を進めるなど、統合前から子どもたちの心のケアに努めます。
計画全体	適正化・適性配置推進計画(案)の7ページの「小中一貫教育の導入の方向性」に対する意見ですが、教育にはある程度の集団でなければ、人間関係の広がりや、協同的な学びの充実が期待できず、強く生き抜く力の育成には、多数がいる集団での教育が必要との事ですが、市内の各学区の地域内では、保育園から始まり、小学校・中学校とそれぞれの地域内での交流があり、友人関係なども形成されていると思います。しかし、統合という事になりますと、どうしても、生徒数の多い学校の常識や慣習が優先する事になりますし(先生方が努力しても、生徒の間で暗黙の了解が出来る可能性が高いです)、廃止になった校区から統合校までの通学時間が長くなり、ただバスに乗車しているだけの長距離移動が毎日必要となり、課外授	<p>【合同授業の実施について】</p> <p>教育委員会としては、子どもたちが集団の中でより多くの人に関わり、自分とは異なる考え方、価値観に触れ、切磋琢磨しながら思考力や判断力、表現力、協働して問題解決に取り組む力を育み、社会性を身に付けることが重要であると考えております。合同授業を行うことも小規模校のデメリットを少なくし、教育の質を担保するという意味では、有効な選択肢の一つであるとは認識しておりますが、教育委員会では、学校生活全体の中で多くの人と関わり、交流することが児童生徒の成長を促すと考えております。</p> <p>また、今後入学児童数が0人、1人となる見込みの小学校があり、</p>

ページ	意見の概要	釜石市教育委員会の考え方
	<p>業や課外活動などをする際にも、帰宅が遅くなりますと、家族の送迎が必要となったりしますし、学びの時間が少なくなり、家族の負担が増える可能性が高いです。</p> <p>しかし、現行の学校のままでも、学校毎にペアやグループを作成して、朝礼の時間などを利用して移動し、合同授業を行えば、多人数での授業の利点になりますし、お互いに尊重しながらの交流や学びがあり、子供達の成長も促せると思います。幸いにも、各学校にはスクールバスがありますし、市内には高速道路網も出来ており、そのおかげで一般道路もあまりひどい渋滞はないようですので、どちらを使っても規定の時間内で相互の学校を往き来可能と思います。</p> <p>最近、タブレットでの授業を推進する機運があるかと思いますが、子供達の脳はまだ形成の途上ですので、単なる視覚での学習では十分な発達が得られないとの研究結果もあり、異なる学校の生徒との合同授業による刺激や対抗心・向上心などがあれば、釜石の教育は素晴らしい、との評価が得られ、子供達の成長にも大いに寄与すると考えます。さらに意見としては、教科書に直接記入する方法や五感を使って活動しながらの教育も脳の発育には有効と考えます。</p> <p>現在の釜石地域の年配の方々の中にも、栄えし頃の人であふれている学校の姿や、その中でみんなが切磋琢磨しながら成長したすばらしい思い出があると存じますが、今の時代では、数さえ集めれば良いという訳でもなく、さらにどう集めても大した人数にはならない訳ですから、現在の少人数をどのようにして活力のある教育システムに出来るかを検討した方が良いかと思います。</p> <p>目的の中に「ある程度の集団の中で、人間関係の広がり、協同的な学び</p>	<p>同学年の友人関係が形成できない可能性があります。教育委員会では、全ての学校生活において孤独な子どもたちを生み出さないよう、友達がいる中で、学校の学びの場をつくっていきたいと考えております。</p> <p>通学時間については、推進計画案どおりに統合がされた場合でも、各地区から統合先の学校までの所要時間は、基本方針の基準内（小学校は45分以内、中学校は1時間以内）に収まる見込みです。</p> <p>また、合同授業のため近隣の学校に移動する場合、行き帰りの移動時間の確保等に課題があるほか、スクールバスで登校し、その後スクールバスで他校へ移動することになる子どもがいることも想定され、さらにスクールバスの乗車に取られる時間が増加するといった懸念もあります。</p> <p>本推進計画案において、唐丹小学校は、複式学級の継続は見込まれるものの、当面は存続することを基本としています。このような場合は、小規模校のデメリットを解消する一つの方法として、近隣の学校との合同学習といった方法を検討する余地があると考えております。</p> <p>当市においては、児童生徒の望ましい教育環境について、学校規模の適正化の観点から検討を重ね、一定の学校規模が必要であると判断しました。複式学級の解消と中学校における学校規模の確保に向けて重点的に取り組むこととし、そのためには学校統合が有効な手段と考えております。</p> <p>【学習の指導方法に関するご提案について】</p> <p>学習の指導方法につきましても、様々な教材、方法が考えられることから、よりよい指導ができるよう、教職員の研修等を含め、さらに研鑽を積んでまいります。</p>

ページ	意見の概要	釜石市教育委員会の考え方
	<p>の充実」があげられておりますが、これは各学校がペアになったの「合同授業」でも実現可能なテーマであると考えます。</p> <p>最後になりますが、各小学校や中学校は、各地域の中心でもあり、コミュニティの象徴でもあります。小規模でも学校が活動していれば、地域の活性化にもつながりますし、合同授業などが成果を上げれば、盛岡などへの移住を考える人も減り、むしろ釜石に来てみようと思われ家族も増えるのではないのでしょうか。</p> <p>(知り合いなどで、学校が充実してないので、盛岡に仕事を探して引っ越したいと思っている方が結構おられます。)</p>	<p>【学校と地域コミュニティの関わりについて】</p> <p>小学校や中学校は、地域コミュニティの中核的な役割を担っている面があると認識しております。このため、基本方針において、当面は現在の5中学校区から学校がなくなることはないように、小学校を1校は存続することを基本としております。学校行事などを通じて各校に受け継がれている伝統や特色ある教育活動の継承についても、統合準備委員会等で検討をしていくこととしております。</p>
その他	<p>中学生の意見を吸い上げたと聞いたが、今すぐにでも解決できる内容があると思う。統合の前に、今ある課題を解決していただきたい。</p>	<p>R6 年度に中学 2 年生に行ったアンケートでは、学校統合に関する内容だけではなく、現在の学校生活についての意見も多くありました。現時点で学校や子どもたちが抱えていて、直ちに解決できる課題につきましては、統合を待たずに取組を進めたいと考えています。</p>
	<p>私たち親の願いは、「整った環境の中で、専門の先生に教えていただき、1日も早く改善されること」です。</p> <p>そのために、釜石市ことばを育む親の会としては、釜石小学校の存続をお願いしたいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 釜石小学校、旧大渡小学校のことばの教室は、昭和42年に県内初の教室として開設されました（親の会は昭和40年設置）。その後開設されたきこえの教室、幼児ことばの教室も旧大渡小学校が始まりです。教室開設から58年（親の会設置から60年）を迎えた今、釜石のことばの教室なくして岩手のことばの教室は語れない歴史ある貴重な存在となっています。 釜石小学校は、県内初の教室ということもあり、3つの指導室のほか 	<p>【「ことばの教室」「幼児ことばの教室」の存続について】</p> <p>現在策定を進めている「釜石市学校規模適正化・適正配置推進計画（案）」において、釜石小学校は双葉小学校との統合を検討しております。どちらの校舎を使用するかはまだ決まっておりませんが、「幼児ことばの教室」は、統合して双葉小学校の校舎を使用することとなった場合でも、双葉小学校に新たに施設を整備するのではなく、既に施設が充実している現在の釜石小学校の教室をそのまま利用することが望ましいと考えます。</p> <p>一方、小学校の「ことばの教室」は巡回指導が中心になっておりますので、統合により別の学校に移したとしても、指導の継続はできるものと考えられます。</p>

ページ	意見の概要	釜石市教育委員会の考え方
	<p>にプレイルームや事務室・保護者控室・資料室など必要な部屋がそろっています。また、二重窓・消音壁・絨毯敷等の防音設備や各教室に水道の設置など教室環境も整っています。通級している子どもたちにとっても、教えている先生方にとっても、学習しやすい環境となっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児ことばの教室と小学校のことばの教室が同じ校舎にあることで、親の会の運営や会議を円滑に進めることができます。また、子どもたちの様子を複数で見ることができ、幼児教室と小学校の連携もスムーズに行うことができます。 	<p>今後、釜石小学校と双葉小学校の統合を進めていく中で、使用校舎も決定しなければなりません。その中で、「ことばの教室」の場所も併せて検討してまいります。</p>

※いただいたご意見は、原文のまま掲載しています。一部、個人を特定しうる情報については、修正または削除をしています